

平成19年（2007年）6月22日発行



学校法人 日本工業大学創立100周年

いよいよ今月29日、100周年記念式典が開催される。さらに、秋にかけてさまざまな記念行事が計画されており、充実した100周年となることが期待される。左は無限を表す「メビウスの環」をモチーフとした100周年記念シンボルマークである。

創立100周年を迎えて ご挨拶



学長 柳澤 章

本年、学園はめでたく100周年を迎え、日本工大は40周年を迎えました。この長い年月において、数え切れないほどの方々の努力、そして支援のもとに、学生たちの学び、成長、飛翔があったということが出来ます。本学園が百周年を迎えることができたことを、関係するすべての方々に感謝いたします。

本物を引き継いできた百年。

私は学園の歩みを「本物を引き継いだ一世紀」と考えています。学園のルーツである東京工科大学および東京工業学校は、学校工場を設け、実習が製造に直結していました。また、本学の開学の際には、東京工業高等学校の生徒たちは、高度な技術を持つ実習教員の指導の下で、本学が使用する施設設備の部材作

り、専門職大学院においても、製造業をはじめとする産業の最前線での知見を、より強力なものとするべく、多くのプロのエンジニアが学んでいます。現在、キャンパスでは諸君もご存知のように、新たな総合情報施設として百年記念館の建設が着々と進められています。図書館、マルチメディア、レクチャール

ーム、学生ホールなど、学生諸君にはこれら多彩な施設を存分に活用していただきたいと思えます。さて、第二世紀に向けて本学では、よりいっそう本物に引き継いで、現場に直結した学びを充実させていきたいと考えています。というのは、今日の社会において、かつては手で触れることができたものが次々とモニターの中に入り込み、さらにはメカニズムは目に触れることなくブラックボックス化しているからです。100年前に比べて、人が触れる情報量は圧倒的に増えました。ところが、手という高性能なセンサーを使用することができる機会は、極端に減っているといわなければならないのです。そうした時代にあつて、学生諸君には本学の恵まれた技術習得の環境を、ぜひ十分に活用していただきたい。そして、本物と現場から得たものを社会で活かしていただきたいと、切に願っています。

2007（平成19）年6月29日（金）、本学園はお陰さまで、創立100周年を迎えます。顧みるに、1907（明治40）年、本学園は、文京区小石川水道端町の地に東京工科大学の名で「実学教育」の旗印のもと、実践的工業技術者を養成すべく開学をみました。1911（明治44）年には、多くの教育機関が集まり、より

幾多の胸に刻んでおくべき事柄のなかでも銘記すべきは、太平洋戦争末期の1945（昭和20）年2月、誇るべき神田校舎——1931（昭和6）年、5年制の中種実業学校として東京工業学校を開校——を戦災で焼失。焼け残り部分を補修して授業を再開したもの、敗戦時の苦境に見舞われ、1948（昭和23）年

立90周年時には、機械、電気電子、建築システム、情報の5学科を擁する学部および大学院工学研究科からなる総合的な教育・研究体制が確立。さらに1996（平成8）年、カナダ・アルバータ州クロフトン・パスにキャンパスを開校し、2001（平成13）年には、地球環境維持に向け、いち早く「国際環境規格ISO14001」の認証

実学精神に基づく

学園第二世紀への挑戦を！

学問的環境に適った千代田区神田錦町に、当時としてはたいへん近代的な学舎を開設、以後、のちに松下電器産業株式会社技術部門を担う副社長として活躍された中尾哲一郎先輩をはじめ多くの人材を輩出するに到りました。したがって、神田キャンパスが、実質的に本学園の発祥地なのです。

4月、新制東京工業高等学校ならびに東京工業中学校を開校、目黒区駒場に土地を得て本格的な活動をみるまで続いた苦難の日々でありました。

1960（昭和35）年には東京工業高等学校付属中学校も再開。1967（昭和42）年には、日本工業大学の開設をみました。1997（平成9）年の学園創

立90周年時には、機械、電気電子、建築システム、情報の5学科を擁する学部および大学院工学研究科からなる総合的な教育・研究体制が確立。さらに1996（平成8）年、カナダ・アルバータ州クロフトン・パスにキャンパスを開校し、2001（平成13）年には、地球環境維持に向け、いち早く「国際環境規格ISO14001」の認証

「学園第二世紀」へと歩をすすめる創立100周年という大きな節目に際し、鋭意踏み切ったのが、学園発祥の地というべき神田にキャンパスを開校した、「社会人のための」専門職大学院で、「科学技術創造立国」に寄与するものとなりつつあります。

今、学園は新たなベクトルに沿って果敢に動き出しております。学園関係者の皆様方には、ぜひ、従前にも増すご奮闘ならびにご尽力を強く期待いたします。

6月29日（金）学園創立100周年記念式典開催

於・帝国ホテル

6月29日（金）の学園創立100周年記念日が目前に迫ってきた。明治40（1907）年に本学の前身である東京工科大学を創立して以来、本学園は一貫して工業教育に取り組んできたが、学園創立100周年を新たな飛躍の年と位置づけ、さまざまな取り組みを行っている。本紙では、周年事業のハイライトとも言える記念式典・祝賀会についてご紹介するとともに、主な100周年事業の概要を記す。

記念式典

記念式典は、創立記念日当日に帝国ホテルで開催される。式典と祝賀会の2部構成で計画されており、15時から16時迄は3階「富士の間」で式典が行われ、その後、2階「孔雀の間」に会場を移して16時30分から18時30分の予定で祝賀会が開催される。

お世話になっている方々を来賓としてご招待するほか、海外も含めた本学関係者および教職員、OB等が一同に集う。式典はおおよそ500人、祝賀会は約千人の参加を想定している。

国際交流は、建学の精神の柱の一つでもあり、本学は海外10校と協力協定を結んでいるが、式典にはこのうち6校から、理事長・学長等が訪れる。来訪が予定されている大学は、中国有数の理工系総合大学であり20年以上の交流を続けている華中科技大学をはじめ、台湾から高苑科技大学、中国科技大学、南台科技大学の3校、タイのキングモント工科大学トンブリ校、米国の伊利ノイ大学シカゴ校、カナダのレスブリッジカレッジである。

式典は、学園讃歌演奏のなか開幕する。開式後は、大川理事長による祝辞、来賓代表者による祝辞、祝電披露、校歌演奏といったプログラムで進行し、柳澤学長による閉会の辞・謝辞で締めくく。

祝賀会は、立食形式で行われ、当日のプログラムには理事長挨拶、来賓挨拶、来賓紹介に続いて本学伝統

の鏡開き、木遣り、津軽三味線等のアトラクションが用意されている。終盤は、本学フラスバンドによる演奏の後、大森校長の謝辞で閉会となる。

当日は、「学園の百年史」や本学オリジナルの記念品が用意され、全員に配付する。

100周年記念事業の概要

神田キャンパスに
専門職大学院、専門学校新設
100周年記念事業として、いち早くスタートした

の鏡開き、木遣り、津軽三味線等のアトラクションが用意されている。終盤は、本学フラスバンドによる演奏の後、大森校長の謝辞で閉会となる。

当日は、「学園の百年史」や本学オリジナルの記念品が用意され、全員に配付する。

の鏡開き、木遣り、津軽三味線等のアトラクションが用意されている。終盤は、本学フラスバンドによる演奏の後、大森校長の謝辞で閉会となる。

当日は、「学園の百年史」や本学オリジナルの記念品が用意され、全員に配付する。

の鏡開き、木遣り、津軽三味線等のアトラクションが用意されている。終盤は、本学フラスバンドによる演奏の後、大森校長の謝辞で閉会となる。

当日は、「学園の百年史」や本学オリジナルの記念品が用意され、全員に配付する。



駒場キャンパス「100周年記念ホール」 宮代キャンパス「百年記念館」

の鏡開き、木遣り、津軽三味線等のアトラクションが用意されている。終盤は、本学フラスバンドによる演奏の後、大森校長の謝辞で閉会となる。

当日は、「学園の百年史」や本学オリジナルの記念品が用意され、全員に配付する。

の鏡開き、木遣り、津軽三味線等のアトラクションが用意されている。終盤は、本学フラスバンドによる演奏の後、大森校長の謝辞で閉会となる。

当日は、「学園の百年史」や本学オリジナルの記念品が用意され、全員に配付する。

百年史編纂

年史は、歴史編（228頁）と未来編（48頁）から成り、セットとしてハードケースに収められる。歴史編で本学の歩みを大筋として、記念式典当日に配付されるので、是非、本学の歩みをご覧いただきたい。

学園創立100周年記念行事

於・宮代キャンパス

学園創立100周年を記念し、さまざまな記念行事が開催される。ここでは、宮代キャンパスで行われる行事を紹介する。

■ 学園創立100周年記念コンサート「ハーブと室内楽の夕べ」

6月9日（土）午後6時から8時30分、本学学生会館ホールにおいて、学園創立100周年記念コンサートが開催された。当コンサートは、地元市民の皆さんへの感謝を込めて開催したもので、会場300席のうち、280名を招待した。

日本工業大学主催、宮代町教育委員会、久喜市教育委員会の後援、(株)サン精密化工研究所の協賛を得て開催された。

出演はNHK交響楽団所属演奏家5名とソロ活動演奏家2名で、このメンバーは、これまで本学で数回開催されたコンサートでもおなじみ。ドヴォルザークのピアノクインтет、チャイコフスキー『花のワルツ』など2時間にわたり9曲が演奏され、大好評を博した。

■ 6/30(土) 13:00～15:00 工友会主催 講演会

中村修二氏「青色LED開発秘話」

工友会（本学卒業生の組織）主催、日本工業大学後援で、青色LED開発者として著名な中村修二氏を迎え、6月30日（土）13:00より記念講演会を開催する。今回は学園創立100周年記念として、近隣の方々に広く招待する。地域の広報紙誌、一般紙等で告知したが、多数の応募があった。

日 時：平成19年6月30日（土）13:00～15:00

講演者：中村修二氏 青色発光ダイオード開発者

現 カリフォルニア大学サンタバーバラ校材料物性工学部教授

テーマ：青色LED開発秘話

場 所：日本工業大学

*中村修二氏、青色LEDについての詳細は、本学ウェブページをご覧ください。

http://www.nit.ac.jp/special/nit_nakamura/index.html

■ 9/1(土) 第1回日本工業大学マイクロロボットコンテスト高校生大会

9月1日（土）本学内でマイクロロボットコンテストを開催する。マイクロ・ナノテクノロジー分野の進展により、機械を構成するセンサー、アクチュエータ等の機械要素が微小化し、それらを統合するマイクロ機械システムの研究開発は医療、家電、情報機器などの分野で進展している。本コンテストは、1インチ(2.54cm)角のロボットが、所定のコースを自立的に走行し、時間を競うもの。

本コンテストに参加できるよう、マイクロロボットキットを無料で配布するほか、必要な基礎技術等を身につける講習会・工作教室などの開催も予定している。本コンテストを契機に、高校生の創造性がさらに高まることを期待している。

日時：平成19年9月1日（土）10:00～16:00（仮）

会場：日本工業大学

主催：日本工業大学

後援：埼玉県教育委員会、(社)全国工業高等学校校長協会、精密工学会マイクロ／ナノシステム研究専門委員会

問合せ先・申込み：工業教育研究所・原田昭教授または機械工学科・中里裕一准教授まで。
工業教育研究所 教授 原田昭

TEL：0480-33-7512、FAX：0480-33-7744、e-mail：akih@nit.ac.jp

機械工学科 准教授 中里裕一

TEL：0480-33-7634、FAX：0480-33-7645、e-mail：nakazato@nit.ac.jp

■ 9/8(土)～9/9(日) 付属中学・高校・大学主催

ミニ鉄道フェスティバル

9/8(土)～9/9(日)の2日間にわたって、宮代キャンパスでミニ鉄道フェスティバルを開催する。参加予定台数は100台（2日間延べ *5/7に申込み終了）。ドイツ、台湾、カナダからの友情参加が予定されている。

日程：9月8日（土）10:00 開会式、10:30～15:00 運転（一般客の乗車）

15:45～17:00 森 博嗣(もり ひろし)氏講演(定員300名)

9月9日（日）10:00 試運転終了 10:00～ 運転開始 14:00 閉会式

14:30～15:00 ラストラン

会場：日本工業大学

主催：日本工業大学付属中学校、日本工業大学付属東京工業高等学校、日本工業大学

後援：東武動物公園、宮代町

運営事務局（問い合わせ先）：東京工業高等学校 機械科（担当：池田・粕谷）

TEL：03-3467-2130（代表） FAX：03-3467-2199

■ 10/13(土) 百年記念館 オープン記念講演

・第1部 記念講演 教育ジャーナリスト 山岸俊介氏

「大学のエクセレンス—大学教育に求められるもの」

・第2部 トークセッション

「大学がかわる—日本工業大学の挑戦」

・設計者による施設案内

10/13(土)13時から15時30分の予定で、百年記念館オープン講演が開催される。第1部は教育ジャーナリスト（山岸俊介氏）による記念講演、第2部はトークセッションで構成され、その後、設計者（小川次郎准教授）による施設案内が予定されている。なお、パネル展「百年記念館ができるまで」が10月1日（月）から20日（土）まで開催される。

日時：10月13日（土）13:00～15:30

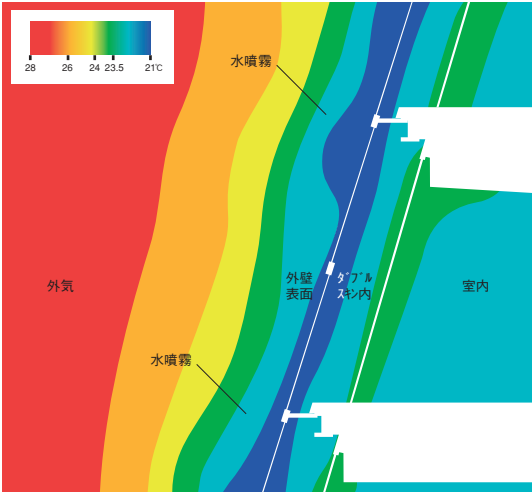
会場：日本工業大学 百年記念館 1階マルチメディア教室およびカフェ棟

主催：日本工業大学

新ランドマーク「百年記念館」



⑥水噴霧スプレーノズル



⑦水噴霧時の建物表面温度分布イメージ図

⑥⑦<水噴霧システム>

百年記念館では外壁に霧（65μm程度の水の粒子）を発生するノズルを配し、気化熱によって建物周辺の空気温度を2～3℃下げ、冷房負荷を低減するよう計画されている。気温が高いほど気化熱の効果が上がり、室内の冷房負荷も低減することができる。効果が期待できない低温、多湿、降雨時・強風時には、センサーにより水噴霧を停止し、効果的に水噴霧を行う。また、夕方には西面、朝は東面というように、冷房負荷の多い面に多く霧を吹くことで負荷のピークを下げる。さらに、低層棟屋上にはスプリンクラーを設置し、屋根面の温度上昇を感知して自動的に散水することで、冷房負荷を低減するよう計画されている。

<その他>

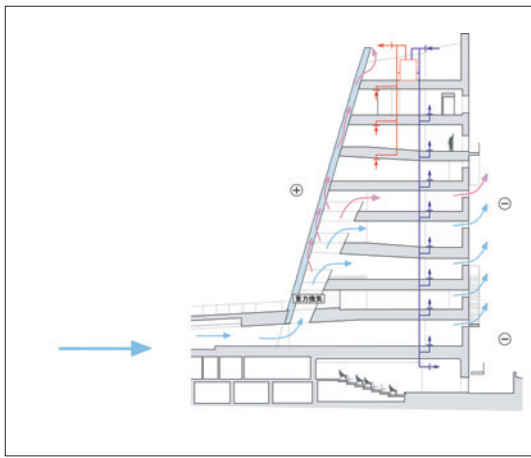
空調熱源には都市ガスの2重効用直焚き吸収式冷水機を採用している。また、建物全体で共通して床吹出し空調システムを採用し、居住域空調としている。雨水貯留槽を設け、積極的に中水利用を行っている。



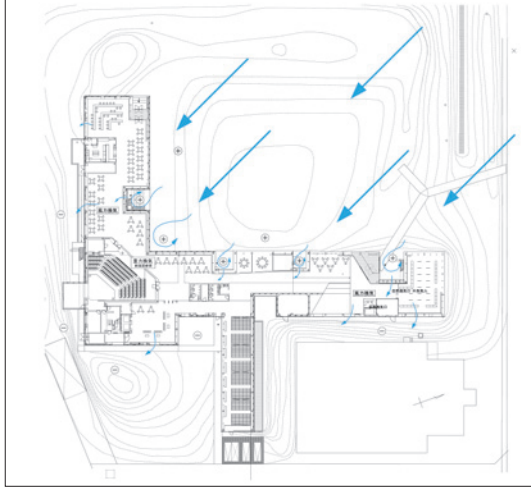
④「百年記念館」イメージ図



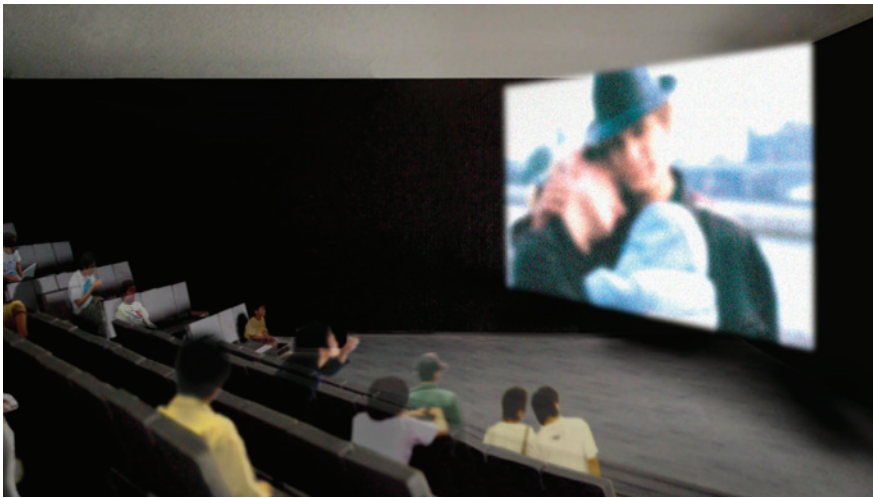
⑤エントランス イメージ図



①自然換気概念図 断面図



②自然換気概念図 平面図
①②<自然換気>
中間期（冷暖房をしなくても快適に過ごすことができる期間）をできるだけ延長するために、北からの風を捉えた自然換気を促すよう計画されている。



③マルチメディア教室内部 イメージ図

西暦	和暦	月	日本工業大学のあゆみ
1995	平成7	4	情報工学科実験研究棟新築工事完工
1996	平成8	3	平成2年着工のババル仏教僧館の復元工事を完了
		5	ベルギーのベカルト社と共同出資でベクニッド株を設立
		6	日本工業大学カナダ研修所開設
1997	平成9	3	機械工学科実験研究棟および機械工作センター新築工事完工
		6	学校法人日本工業大学創立90周年記念式典挙行政
1998	平成10	2	技術教育国際フォーラム「感性シリーズ」の第1回シンポジウム「感性と工学」を開催
		4	産学リエゾンセンターを設置
		5	「歴史的価値のある工作機械の顕彰制度」制定
		12	大学院工学研究科情報工学専攻修士課程設置認可（入学定員8名）
1999	平成11	3	先端材料技術研究センター完工
		3	太陽光発電システム設置（300kw）
2000	平成12	4	工学部に数学（中学）の教職課程設置認可
		12	大学院工学研究科情報工学専攻博士課程（後期）設置認可（入学定員2名）
2001	平成13	4	システム工学科・情報工学科に教職免許（情報）認定
		6	全学で国際環境規格ISO14001（JACO）を認証取得
2003	平成15	4	獨協大学・文教大学との単位互換協定を締結
		2	風力発電システム設置（5kW建築学科棟屋上）
2004	平成16	3	フライングランキンゲンセンター新築
		11	大学院技術経営研究科技術経営専攻に専門職学位課程設置認可（入学定員30名）
		3	神田キャンパス竣工
		4	大学院工学研究科情報工学専攻博士前期課程に教職課程（情報）設置認定
2005	平成17	7	文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」に採択
		9	学内LAN工事完成（幹線1G、支線100M）
		9	埼玉県東部地区大学単位互換協定に埼玉県立大学が加わる
2006	平成18	4	産学リエゾンセンターを廃止し、産学連携起業教育センター設置

募金のお願い

本学百周年記念事業として「百年記念館」（図書倉庫・情報複合施設）を建設します。是非とも皆様の絶大なご支援を仰ぎたく、募金にご協力賜りますようお願い申し上げます。

■募金目標額 9億円

■募金の期間 平成20年3月31日まで

■募金をお願いする方

■個人の場合（特定公益増進法人寄付金）……担当：法人事務局

（在校生父母、卒業生、一般篤志家、教職員等）

1口 1万円（できれば2口以上）

■お問い合わせは、法人事務局まで TEL：03-3467-2132

■法人の場合（受取者指定寄付金）……担当：大学財務部

（取引先企業、卒業生、在校生父母の自営企業、その他の企業等）

1口 10万円（なるべく多くの口数をお申し込みくださいますようお願いいたします）

■お問い合わせは、本学財務部経理課まで TEL：0480-33-7504

■ならび■ともに寄付金の減免税措置が受けられます。

学園創立100周年

学生が参加する100周年記念行事

学園創立100周年を記念し、本学では学生が参加する100周年記念行事を次の様に企画しています。特に「論文コンテスト」「シンボルマーク」コンテストでは、学生の皆さんのフレッシュな提言・提案に期待しています。詳細は以下の通りですので、是非、ふるってご応募ください。提出期限は9月28日（金）、審査結果の発表は10月20日（土）に百年記念館で行います。

百年記念館は、10月13日（土）にこけら落としを行います。その後の1週間は、百年記念館オープニングイベントとして、学生主催の映画祭やパフォーマンスが開催されます。皆様お誘い合わせのうえ、ご参加ください。大勢の方々のご参加をお待ちしています。

■論文コンテスト

趣 旨	本学園の創立100周年を記念し、次の時代を担う学生諸君に、本学の将来像や本学及び学生諸君の果たすべき役割を提案する論文を募集します。
募 集 テー マ	①科学技術と日本工業大学の将来 ②私が考える日本工業大学及び自分自身の役割
賞	各テーマに対して最優秀賞（1編）：楯と5万円相当の副賞 優 秀 賞（2編）：楯と3万円相当の副賞
応 募 資 格	学部生、大学院生、留学生別科生、研究生
締 切 り・提 出 先	平成19年9月28日（金） 午後 5：00 学生支援課（職員に手渡しのこと）
審 査 委 員	学長、学生支援部長、カレッジライフ支援委員等
審 査 方 法	審査委員会がテーマごとに論文を審査し、最優秀賞と優秀賞を決定する。
発 表 日	平成19年10月20日（土） 百年記念館

*応募要領等の詳細は本学ウェブページをご確認ください。

■シンボルマークコンテスト

趣 旨	本学園の創立100周年を記念し、学生生活における「マナー」に対する意識を喚起させ、快適な学生環境の実現に寄与するシンボルマークを募集します。
募 集 テー マ	①ゴミ関係（ゴミのポイ捨て禁止等） ②タバコ関係（禁煙、喫煙マナー遵守等） ③自転車関係（ルールやマナーの遵守： 放置、二人乗り、無灯火等）
賞	各テーマに対して、最優秀賞（1点）：楯と5万円相当の副賞 優 秀 賞（1点）：楯と3万円相当の副賞
応 募 資 格	学部生、大学院生、留学生別科生、研究生
締 切 り・提 出 先	平成19年9月28日（金） 午後 5：00 学生支援課（職員に手渡しのこと）
審 査 委 員	学長、学生支援部長、カレッジライフ支援委員等
審 査 方 法	第1次審査：10月9日～13日に公開し、学生、教職員による投票を行う。 第2次審査：投票結果を参考に審査委員会が各テーマごとに最優秀賞と優秀賞を決定する。
発 表 日	平成19年10月20日（土） 百年記念館

*応募要領等の詳細は本学ウェブページをご確認ください。

■百年記念館オープニング映画祭

～学生が選んだ映画鑑賞会～

百年記念館の150名収容のマルチメディア教室で150インチのスクリーンを使って劇場感覚で名画を鑑賞します。

【上映映画】

上映する映画は、①在籍する留学生の母国の文化を紹介するものとして、韓国、タイ、ベトナム等のVTR（それぞれ15分～30分程度）と②学生が選んだ劇場映画を2本、それに③アジア映画（中国を予定中）1本を予定しています。

【日時・放映内容】

・10月15日（月）～17日（水）18:30～2時間程度

15日（月） 各国文化紹介VTR＋学生が選んだ映画

16日（火） 各国文化紹介VTR＋アジア映画

17日（水） 各国文化紹介VTR＋学生が選んだ映画

【抽選会】

・抽選番号を印刷した映画鑑賞チケットを配布し、映画鑑賞後に、景品の当る抽選会を実施します。

■百年記念館オープニング学生パフォーマンス

～学生による演奏・演劇鑑賞会～

10月15日（月）から19日（金）の1週間、昼休み時間を利用し、百年記念館のマルチメディア教室で学生パフォーマンスを上演します。

【実施内容】

・吹奏楽による演奏発表 3日間：

アンサンブル形式（指揮者なしで5～6人が演奏）で5～6曲を演奏（20～30分程度）

・留学生による演劇等発表 2日間：1日に3種類の演目を上演（30分程度）

①メンバーの留学生による人形劇 ②中国留学生によるモンゴルの民族舞踊

③バングラディッシュの留学生による民謡 *2日とも同じ内容で上演します。

【日時・上演内容】

・日時：10月15日（月）～19日（金）の昼休み12:30～13:10

15日（月） 吹奏楽による演奏

16日（火） 留学生によるパフォーマンス

17日（水） 吹奏楽による演奏

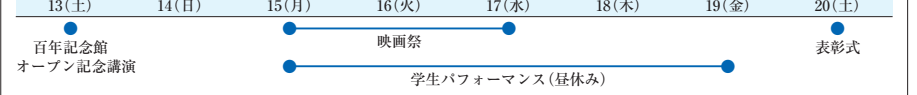
18日（木） 留学生によるパフォーマンス

19日（金） 吹奏楽による演奏

【参加の特典】

・参加者には軽い昼食を配付する予定です。

■百年記念館イベントスケジュール



学生表彰にチャレンジ

平成19年4月1日から「日本工業大学学生表彰規程」に従って、下表に示す学生表彰を実施する。この表彰は学園100周年を記念して、学業や活動において特に優れた成績を挙げた学生を讃えるために定められた。

なお、学長賞は平成18年度から実施されており、平成19年3月20日の学位記授与式において、各学科3名の合計15名に授与された。また、4月24日には、情報棟5階会議室において、学業奨励奨学金給付奨学生の表彰式とポスター用写真の撮影が行われた。

努力した結果が評価されるため、これらの賞を目標に頑張ってくれる学生が増え、結果として大学生活を有意義に過ごしてくれることを期待する。詳細については、学生支援課に問い合わせのこと。

表彰名称と学生表彰項目

	項目	表彰名称
学業面	学部卒業時において、各学科で学業成績が特に優れ、かつ人物が優秀と認められる者	学長賞
	大学院（博士前期課程）の修了時において、学術研究業績が特に顕著と認められる者	学長賞
	学部の単年度（1,2,3年次）において、各学科で学業成績が特に優秀で、人物が優れていると認められる者	エクセレントスチューデント(ES)賞
	学部の単年度（1,2,3年次）において、各学科で上記ES以外の学業成績優秀者で、人物が優れていると認められる者	リマーカーブルスチューデント(RS)賞
	学部のエクセレント工房において、定められた条件を満足したと認められる者	カレッジマイスター賞
	学部のプライマリー工房において、定められた条件を満足したと認められる者	カレッジマイスタープライマリー賞
	学部卒業時において、英語科目で特に優秀な成績を挙げたと認められる者	英語教育センター長賞
学生生活面	課外活動において、特に優秀な成績を挙げたと認められる者	学生支援部長賞
	社会活動において、特に顕著な功績を残し、社会的に高い評価を受けたと認められる者	学生支援部長賞



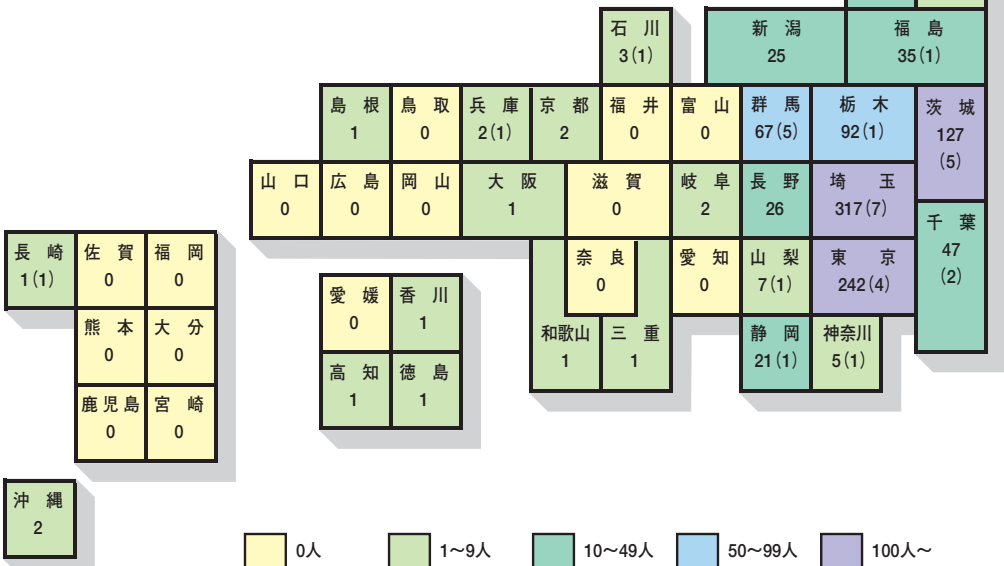
学長と記念撮影する機械工学科3年の奨学生（4/24）

新入生の出身地マップまとまる

〈凡 例〉
入学者総数（女子）

留学生他	合 計
32 (7)	1,153 (43)

※「新入生」には1年生の他、2年以上への編入学者・秋季入学者も含まれます。



平成19年度本学学部入学者の都道府県別入学者数がまとまった。総入学者数は1,153名。うち女子学生は43名、留学生等は32名である。都道府県別入学者数は、昨年に続き埼玉がトップで317名。次いで東京が242名、茨城127名、栃木92名、群馬67名がベスト5である。この5都県の合計845名で全入学者の約73%を占める。

●平成19年度 女子学生在籍者（学部）

学年	機械	電気電子	建築	システム	情報	合計
1年			30	9	3	42
2年	2	3	19	4	5	33
3年	3	2	26	7	10	48
4年		1	27	2	5	35
計	5	6	102	22	23	158

●平成19年度 留学生在籍者（学部）

学年	機械	電気電子	建築	システム	情報	合計
1年	9	2	2	11	4	28
2年	4	8	1	10	5	28
3年	11	3	6	15	8	43
4年	4	5	4	8	14	35
計	28	18	13	44	31	134

●留学生の出身国・地域

出身国・地域	計
中華人民共和国	110
大韓民国	8
中華民国	5
バングラディシュ	4
ネパール	2
サウジアラビア	1
スリランカ	1
タイ	1
ベトナム	1
ミャンマー	1
モンゴル	1
計	135

新入生歓迎イベント

毎年4月、5月には、学生自治会の各委員会が主催して新入生を歓迎するイベントが開催される。その中で、主だったイベントを紹介する。



体育祭 騎馬戦の様子

毎年4月、5月には、学生自治会の各委員会が主催して新入生を歓迎するイベントが開催される。その中で、主だったイベントを紹介する。

ディアでもお馴染みの人気お笑いタレントを一目見ようと、会場となった学友会館には開場前から長蛇の列が出来ていた。300人余を収容するホールは満席となり、立ち見客もでるほどだった。歯切れのいいテン

ポのボケとツツコミに学生たちも大爆笑。今春入学した新入生たちを笑いで祝福してくれた。

5月16日（水）には、体育祭実行委員会主催の第40回体育祭が、本学グラウンドで開催された。昨年は雨天のため中止になってしまっただけでなく、今年もこの時期には大学生活にもだいぶ慣れたようである。体育祭を楽しむ姿が印象的だった。

平成20（2008）年度の大学案内が完成した。表紙は校章をモチーフとしてデザインされており、本文部分も含めて全体的に落ち着いたイメージでまとめられている。

内容としては、冒頭部分で教育プログラムや支援体制、100年の歩みなどの特徴を紹介し、学科紹介では来年度から始まる各コースについて詳しく説明している。



また、大学案内のミニ版ともいえるA6サイズの「ブックレット」も用意。女子受験生にも親しみやすい内容、デザインで構成されており、大学案内ともデザイン的な統一感がある。

入手希望者は入試室（0480-3317676）に問い合わせのこと。

恒例の大学祭実行委員会主催「春のぼかぼかこんさあ」とが4月14日（土）、体育館で行われた。ゲストは、1の4組。テレビなどのメ

は、ネゴシックス、若井おさむ、永井佑一郎（アークセルホッパー）、パンクフープ

今回の出演者が行われた。

中央執行委員会主催の新入生歓迎講演会が行われた。

5月10日（木）には、中央執行委員会主催の新入生歓迎講演会が行われた。

今回の出演者が行われた。

今回の出演者が行われた。

今回の出演者が行われた。

今回の出演者が行われた。

完全分煙実施

4月9日から
本学は学生からの要望で、平成19年4月9日から完全分煙を実施した。

平成18年5月30日に開催された学生総会、同年7月10日に開催された学生環境推進委員会と学生環境推進連携部会との会合や、平成19年1月26日に開催された学生自治会代表者と学長との昼食会において「学内を完全分煙にして欲しい」との強い要望があった。

この要望に対して、大学側は、大学を挙げて完全分煙運動を実施することにした。実施時期については、学生自治会からは「新入生が入学する前に完全分煙を実施したい」との要望があ





平成19年度、第3期生の入学式

去る4月3日(火)夕刻、神田キャンパスにおいて、専門職大学院・技術経営研究科の第3期生38名を迎えての入学式が、大川理事長、柳澤学長をはじめ大学幹部、専任教授、来賓列席のもと挙行された。

本大学院の大きな特徴は、社会人、特に中堅・中小企業の勤務者を主対象に、1

年間集学的・効率的な勉強により技術経営修士(専門職)の学位を取得できるようにしたこと、非学卒者でも十分な実務経験を有し、資格認定に合格すれば出願できることである。

3期生は1、2期生と同様に、全員が実務経験者であり、今期の内訳は男性33名、女性5名、平均年齢39・8歳(最年長60歳、最年少26歳、学卒以上24名、非学卒14名、企業派遣19名、個人出願19名である。性別、平均年齢はこれまでと大差ないが、学卒以上が増えたこと、企業派遣が半分に達したことが今回の特記事項といえる。企業派遣者が多いことは、企業から高い評価を受けていることを意

専門職大学院オープンキャンパス

2007
9/8(土)
11/10(土)

2008
1/12(土)
2/9(土)

※各日とも13:00 開始予定

■シンポジウム
■説明会
■キャンパスツアー
■授業見学 等を予定

参加ご希望の方は
事前にお申し込みください
お申し込み先
日本工業大学 専門職大学院
TEL. 03-3511-7591
FAX. 03-3511-7594
E-mail: mot@nit.ac.jp

第3期生38名スムーズに始動

専門職大学院だより

高大連携プロジェクト スタート

新しい組織で高大連携プロジェクトがスタート。日本工業大学の建学理念として進めている実工学の教育と工業高校で展開している「ものづくり教育」とが一心同体となって、工業教育の充実・発展を目指すために、高等学校と日本工業大学との連携が進んでいる。

平成18年11月、工業教育研究所内に高大連携プロジェクト室が設置され、「出前授業」の目玉は、主体とする教育活動を組織的・計画的に大学全体で取り組んでいく方針が決まった。そこで、本学への入学者の多い関東近県の高等学校を拠点校として協定を結び、「連携型教育」を進めることにした。

平成19年4月現在、1都7県における協定校は48校で、その内訳は、千葉県8校、福島県3校、東京都6校、栃木県3校、埼玉県7校、長野県3校、茨城県13校、群馬県5校である。なお、これから連携を希望する高校も出てきており、今

「出前授業」が始まるとともに、依頼申し込みが同プロジェクト室に届いている。この出前授業以外に、

埼玉県内の高校との調印式

- ①大学または高等学校における実験・実習
- ②大学または高等学校における

くり実習などを高大連携の取り組みとして実施できるよう準備を進めている。

各都県ごとに協定の調印式を行ってきたが、高等学校側は日本工業大学との連携に大きな期待と関心を持っていることが強く伝わってきた。意見交換の中で、高等学校側から、インターンシップの一環として、大学研究室で3日間程度、実験・実習を体験させて欲しい旨の依頼があった。早速対応したいと考えている。今後は、高等学校と大学がより一層連絡を密にして、単位認定する方向に発展させたい。高大連携プロジェクト室では、全学の協力を得ながら高等学校側の思いを真摯に受け止め、実のある高大連携を構築していきたいと考えている。

工業教育研究所
高大連携プロジェクト室

「出前授業」の内容

「出前授業」は、本学の教員が高等学校を訪問して授業を行うもので、工業大学の講義の一端に触れることで、高校生に、工学の面白さ、「ものづくり」の楽しさを味わってもらう企画である。今年度は97テーマあがっているが、下記に授業題目の一部を紹介する(詳細は<http://www.nit.ac.jp/category/lecture.html>)。

【機械工学科】

- ・自動車エンジンの作り方
- ・昆虫や植物に学ぶ新しいものづくり
- ・3次元CADを学ぶ
- ・挑戦！次世代ロボット
- ・風車で作るクリーンエネルギー
- ・ダイヤモンドの魅力ー作り方と使い方ー
- ・NASAとの連携プロジェクト：月面探査車(Rover)とレゴリス
- ・「儀右衛門」・「エンジン」からモビルスーツを目指して

【システム工学科】

- ・「赤い光・青い光～半導体の魅力」
- ・デジタルカメラの仕組みと画像処理
- ・航空宇宙システム開発とシミュレータ
- ・本人認証～ひとそれぞれが持っているもの～
- ・身近な地球温暖化対策
- ・文明の跡地は砂漠になる
- ・クルマの安全を“チーム”として考えよう
- ・ドラえもんの夢ー身のまわりのやさしい科学ー
- ・ガス管内や腸内を走れるロボットのお話

【電気電子工学科】

- ・コンピュータと暗号化技術
- ・ナノの世界へ(ナノテクの主役、カーボンナノチューブ)
- ・ロボットとサイボーグ
- ・光ファイバ通信のしくみ
- ・リニアモーターカーのしくみ
- ・超微細な物作り技術を使った製品vs.私たちの能力
- ・音のデジタル処理
- ・アナログって何？デジタルって何？
- ・永久磁石の話／超電導の話

【情報工学科】

- ・音声生成の物理学とシミュレーション
- ・コンピュータと人が仲良くする技術のお話
- ・どこでもコンピュータ
- ・放送技術の進歩80年ー過去・現在そして未来へー
- ・インターネットの発展と応用
- ・コンピュータグラフィックスのしくみ
- ・ロボットビジョン(ロボットの視覚能力)のためのデジタル画像処理
- ・位置情報システムのしくみ

【建築学科】

- ・歴史を生かした町づくり
- ・異文化を解きあかすー住まい見聞録/教養としての建築ー
- ・ヒートアイランド研究の最前線
- ・空間体験を通して学ぶ建築移動ゼミナール
- ・建築材料のあれこれ
- ・住宅設計の楽しみ
- ・田園計画へのプロローグ
- ・地震のメカニズムと建物被害
- ・世界遺産と国際協力

教育ボランティア開始

杉戸中学でアシスタントをする本学生

教職課程履修者を主な対象とした「教育ボランティア派遣制度」がスタートした。授業等で忙しい中、多くの学生が小学校や中学校で活動している。

教育ボランティア派遣制度の目的は2つある。1つは、教員を目指す学生が、早い段階から教育現場に入り、児童・生徒や教員と交流することで、教員としての資質を向上させること。もう1つは、学生の若い力で地域の教育活動に貢献することである。

近隣の小学校・中学校・養護学校等での授業補助が主な活動内容だが、クラブ活動の指導補助なども対象に含まれる。そして、活動

時間が45時間に達した学生に自由科目の「教育ボランティア」の1単位を、さらに活動が続けて90時間に達した学生には「教育ボランティアII」の1単位を認定する。

学生が小・中学校等でボランティア活動することになった。学生にとっては、ボランティア活動の記録が成績表にも残ることで、動機づけが一層高まると期待される。また、受け入れ学校側から学生へ指示を出しやすくなり、活動がより円滑に行えるようになると思われる。

今学期は、杉戸町立杉戸中学校のコンピュータアシスタントティーチャー、幸手市立上高野小学校の算数アシスタントティーチャー、県立宮代養護学校のボランティア補助教員等の活動が始まっている。学生たちは、緊張しながらも、充実した体験をしている。

他の複数の学校からも派遣依頼が来ているので、学生諸君にはさらに積極的な参加を期待している。

(教職教育センター)

第3回

「学園創立百周年記念 第3回本学卒業現職教員の集い」の開催について

現在、千余名の卒業生の皆様が、全国の小・中学校や高等学校で教職に就き、活躍しています。

卒業生の皆様の教育現場での活躍を、大川理事長、柳澤学長はじめ、本学の教職員は期待しています。

昨年の「集い」は、約1

30名のOB教員・教職員の参加のもとに、講演会・懇親会を開催しました。

学園創立100周年にあたる本年も、全国の現職教員の研修の一助になればと考え、OB教員の集いを企画しました。全国の同窓の教員が集まり、各地区・学校

内容

- (1)研究協議会
- (2)講演会
- (3)コンサート
- (4)懇親会(会費無料)(現職教員の集い)

実行委員会

昨年同会で行われた元本田技研・西氏の講演

今学期は、杉戸町立杉戸中学校のコンピュータアシスタントティーチャー、幸手市立上高野小学校の算数アシスタントティーチャー、県立宮代養護学校のボランティア補助教員等の活動が始まっている。学生たちは、緊張しながらも、充実した体験をしている。

他の複数の学校からも派遣依頼が来ているので、学生諸君にはさらに積極的な参加を期待している。

(教職教育センター)

